

「2019年3月ダイヤ改正について」提案受ける! **その2**

新たな乗務員勤務制度の運用について

導入の目的

法令改正や人口減少に伴う社会の変化が急速に進んでいる。今後もそのスピードは増すと考えている。社員一人ひとりが持っている能力を一層発揮してもらいたい。また、ライフスタイルの充実と働きがいの創出のために柔軟な働き方を目的としている。

育児介護行路の設定について

- ・職場の人数規模と過去の実績から秋田運輸区の運転士、車掌に1つずつ育児介護行路を設定することにした。他の運輸区は対象者が発生した段階で変行路で対応していく。どの時間帯で短時間行路を希望するかということもあるので本人の考えを聞いた上で対応できるか判断する。
- ・現時点で育児の方からの需要はない。毎年ある一定の時期に個人面談等も踏まえ状況を把握した上でダイヤ改正に向けて検討していくことになる。休職者が復職時に希望するかも含め把握していく。
- ・行路選択制という会社の考えはあるが実用と実態を踏まえ検討することになる。

指導担当の乗務について

- ・3月のタイミングで乗務をすることは考えていない。
- ・指導担当の人数、現場の状況、短時間行路の設定状況で現場と相談しながら進めていく。
- ・指導担当として様々な業務がある中で、教育資料に関しては支社で作成した資料を現場で活用してもらう等の業務の見直しは出来ると思うが一概にそうならない場合もあるので業務を見ながら対応していく。

当務主務の運用について

- ・目的は当直業務を学ぶことと人材育成。本人や現場管理者にも目的を理解してもらうように伝える。
- ・今のところ運用する職場はない。今後、主務職が増えてくれば検討する。
- ・業務の概要とすれば乗務、当直業務、勤務作成となる。

企画部門社員の乗務について

- ・現行は考えていない。ダイヤ改正以降に異動者が発生した場合には前向きに検討が必要と考えている。
- ・勤務箇所とすれば支社運輸部や総務部、営業課と系統は限らない。ただし、輸送指令は除く。
- ・週2～3日の乗務という考えは持っているが行路設定を考えると難しい部分はある。
- ・業務をどのように割り振りするかは管理者が指示するが乗務をしていることにも配慮していく。業務量はしっかり把握していく。また、乗務員から支社へ異動する場合は乗務しながら慣れない業務を覚えることになるので考慮していく。
- ・秋田運輸区以外でも検討して出来るのであればやっていく。物理的に厳しい場合もある。

その他

- ・指導担当の乗務、当務主務の指定、企画部門社員の兼務は面談等で本人希望を把握した上で判断していく。
- ・新たな制度になるので勤務作成者の不安を解消するように対応していく。

安全を大前提とした働きやすい環境を現場の声で創っていこう!